他者の良いとこ取りから リーダー像を作る

　これからリーダーを目指す人、リーダーになりたての人、リーダーとして行き詰っている人、リーダーとして磨きをかけたい人、小さな部署大きな部署でそれぞれ頑張っていらっしゃると思います。今回は自分の目指すリーダー像を作るための考え方として、参考にしていただけたらと思います。

　身近なプロ野球の世界で、昨年オリンピック日本代表侍ジャパンの監督を務めた稲葉監督のリーダー像のあり方について紹介します。

　稲葉監督が現役時代、８人の監督の下で学んだことをワンポイントずつ挙げて実際に実施している、その内容は以下のようなものです。

1 野村監督・・・・・・・・考える野球（ID野球）　※ID＝Important data

2 若松監督・・・・・・・・日頃から選手を観察する重要性

3 ヒルマン監督・・・・１点をとって１点を守る野球

4 梨田監督・・・・・・・・捕手目線の鋭い勝負勘、選手と意思疎通を図る姿

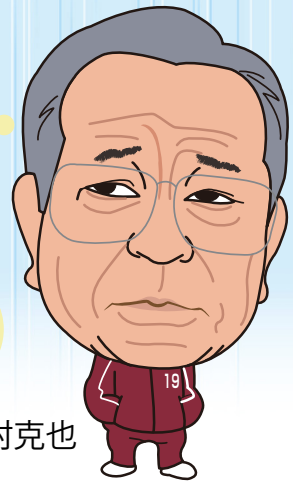
5 栗山監督・・・・・・・・選手ファーストの姿勢

6 星野監督・・・・・・・・選手の気持ちを動かすことができる監督、「情熱」

7 原　監督・・・・・・・・勝つチーム作りを目的とした選手選考

8 山本監督・・・・・・・・選手と心中する覚悟、
信頼関係の重要さ

好かれなくても良いから、
信頼はされなければならない。
嫌われることを恐れている人に、
真のリーダーシップは取れない。

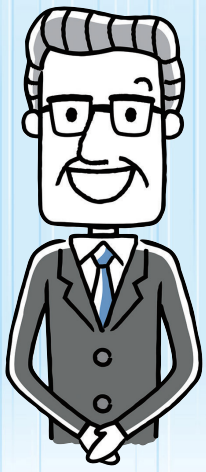


野村克也

こ監督経験のない稲葉監督が、日本代表の指揮官として、「短期決戦の国際試合ではチームの結束なくして勝利はない」と考え、メンバー選びに当たっても「いい選手を集めるより、いいチームを作りたい。一番大事なのは、自分を犠牲にしてでも本当にチームのためにどうすればいいかを考えているか。選手が自分の役割を果たしてくれるチームにしたい」と考えていたそうです。そのいいチーム作りをするにあたり、現役時代の８人の監督の良いとこ取りをしたリーダーの采配(マネージメント)が生かされ、金メダル獲得に繋がったと言えます。

プロ野球の世界でも、我々企業の世界でも、リーダーとしてマネージメントをしていくことに変わりはないと思います。

仕事でお会いするリーダーの方々の中で、頑張っておられるな、光っているなと感じさせる方がおられます。他部署の中で、又得意先や仕入れ先、アウトソーシング先の中で、この人はこんなところが凄い、自分の目指すリーダー像に取り入れたいポイントだと思うところがあります。そうした人たちの良いとこ取りをさせてもらうべく、出会いを大切にし、接していくことで、自分の中に良い形で取り込まれていくことになります。気づいたそのポイントを常に意識をし、行動していけば必ずや身についていき、自分自身の理想のリーダー像を創り上げていくことになるのではないでしょうか。



長嶺　堅二郎